

ふみこ句日記

2000/5/51

はじめに

昭和四十八年九月浅野房子さんと三朝温泉への車中、山下光子に出会ひ三朝の病院に療養中の大塚さんを見舞う旅だったが 話は吉川美佐姉のすすめにより京鹿子火曜教室に浅野さん 小田澄子さんが入会

九月初旬会に出席した様子だった。私も一か月おくれで 十月よりともかく出句した。

造る書くと言うことには全々自信のない出発だからあまり進んだ気持ちでは」なかつた。以来 もう止めるを繰り返した。美佐さんへの義理を続けていると言った。

そして十八年の年月が過ぎた。納得のいく自分の句句は殆んど無い。

個人で句集を作られた句友も何人かあるが 火曜火鏡 合同句集の仲間入りが精一杯のこと、それ以上自分の句を活字にのこすことは考えてもいなかった。けれどここ数年前から句日記として 整理してみようと思ひ立った。下手、句になっていない句 それでよい。思えばかりでなかなかとりかかれないで 二、三年は過ぎた。

今回 玉造温泉 厚生年金会館 保養ホームに入所 山下さん 悦子さんと合流するまでの一週間 一人の機を得て漸く一頁をかき出し始める。振り返り見る十八年 記憶確かでないものもあるが思ひ出は楽しい；

第1章 野仏

吉祥会で大森先生 池永先生に 一緒に当尾の石仏をめぐりて s48.9

野仏の笑ひ在せり

曼珠沙華

「草紅葉」兼題 幼き日の思い出 s48.10

日を浴びてままごとの子や草紅葉

顔見世の名残を夢に見しも去年 19731200

髪結ひて寝ず娘は待つ初詣 19740100

猫の恋根笹の乱れ昨日今日 19740200

山の色幾重の果の雪解光 19740200